

育友会 支部懇談会スタート まず、全国27会場で 8月2、3日

専修大学育友会(久岡清太会長)の支部懇談会がスタートし、8月2,3の両日、全国27会場で開催された。久岡会長が大分、小倉の両会場に、大学からは山下徳夫理事長が佐賀、長崎両会場に、出牛正芳学長が沖縄会場にそれぞれ出席したのをはじめ、教職員多数が全国の会場を訪れ父母と懇談、有意義なひとときを過ごした。名古屋会場では就職懇談会が併催された。今後は、8月17日(日)、23日(土)、24日(日)、30日(土)の4日間、41会場で開かれる。

学生の支援事業を報告 久岡会長



久岡会長は8月2日、大分全日空ホテルオアシスタワーで開かれた大分支部の懇談会に出席した。

父母ら約35人が参加し、実崎秀隆支部長のあいさつの後、久岡会長は45回目を迎える支部懇談会にあたり、育友会誕生のエピソードを紹介し「この懇談会は、大学側のスタッフと直に話ができる良い機会です。皆様方の忌憚のないご意見を寄せていただき、

本日を爽やかな良き日にしていきたいと思っております」と呼びかけ、学生の支援を柱とする育友会の事業展開を報告した。

高津信三ネットワーク情報学部長らが勉学、就職・進路についての説明を行い、就職体験談では地元の銀行に内定した吉松隆裕くん(経済4)が「充実した学生生活を送ること。それが就職活動においてもポイントになる」と、この1年を通じて実感したことを率直に披露。会場の父母に感銘を与えた。

「就職対策に全力」山下理事長



8月3日、山下理事長が出席した長崎支部(土肥紀子支部長、ホテルニュー長崎で)の懇談会には父母ら約30人が参加した。

山下理事長は「『専大に入学すれば、就職は安心出来る』とご父母の皆さんから言っただけのよう、大学の『出口』を大事にしていくことが肝要だ」と、就職対策に今後も力を入れていくことを強調した。

前田政宏育友会主任(法学部教授)、校友会長崎支部の山下洋一郎幹事長(前育友会長崎支部長)のあいさつに続き、NIB長崎国際テレビ報道制作部記者として活躍中の小川賢二さん(平11経営)が就職体験談を披露。学生時代、どんなことでも吸収する柔軟性をもって取り組んだことが糧となった、と語った。小藤康夫商学部教授らが大学からの報告を行い、昼食をはさんでグループ・個人面談が行われた。

【ニュース専修8月号1面】

法科大学院学内説明会 他大学生や一般社会人 概要説明、個別相談も



▲個別説明会で質問する参加者

04年4月開設が予定される法科大学院(設置認可申請中)の、他大学生や一般を対象とする説明会が7月19日、神田キャンパスで開かれた。学生、大学院生、社会人ら約150人が出席し、熱心にメモを取る姿が目立ち、質問も多数寄せられた。

平井宜雄委員長、岩井宜子副委員長をはじめ法科大学院開設委員が説明にあたり、本学における教育の特色、設備、カリキュラムや入学者選抜試験の概要(1月31日筆記試験、2月7日面接試験)、今後のスケジュールなどの説明がなされた。説明会終了後は個別説明会も開かれた。8月23・24両日にも神田キャンパスで個別相談を行う。

【ニュース専修8月号1面】

宇宙の神秘を探る 自然科学研究所が公開講演会



自然科学研究所主催の公開講演会が7月5日、市民や学生ら約200人が参加し、開催された。

今回は文部科学省宇宙科学研究所・阿部新助研究員による「宇宙系小天体探査」および、森正夫本学法学部助教授による「SPACEで探る宇宙の進化」の二講演が行われた。専修大学情報科学センター並列計算機SPACEIによるコンピュータシュミレー

ションや、NASA国際航空機観測ミッションで得られた流星嵐等の美しい映像に参加者はしばし魅了され、宇宙の神秘に思いを馳せた＝写真。

【ニュース専修8月号1面】

キャンパス探訪 アートの旅〈10〉 集積都市とPAL



アートの旅は、絵画の鑑賞に移ろう。生田キャンパスの校舎には、随所に油彩画が飾られる。1号館1階ロビーに第一美術協会会員・井上正二の『集積都市2』がある。抽象画ではない、かといって、具象画というには抵抗がある。現代都市を象徴するような、超密な建造物群を想像させる。コンピュータの裏に潜む集積回路を思わせ、現代の「バベルの塔」のような不安定さ=写真。

「無機質」が現代なのか？振り向くと、そこに元第一美術会会員・川瀬泷の『PAL92』。変哲のない煉瓦壁のような、やはり無機質な単色の絵。目を凝らすと、そこに若い男女の唇を寄せ合おうとする、うっすらした影が浮かび上がる。

PALは仲間、友人、相棒。現代の荒野の中で求めるのは何か？

【ニュース専修8月号1面】